クラブの「運営ボランティア」を増やすにはどうすればいい？

令和2年2月26日に第2回地域スポーツクラブ連絡協議会を実施しました。事前アンケートの結果、テーマを「ボランティアの確保」と設定し皆さまにグループワークをしていただきました。その結果、上記テーマに関する以下のような原因・課題と取組・解決策が抽出されました。

【原因・課題】 なぜ運営ボランティアが増えないのか

メリット・やりがいを伝えられていない

・会員にとって運営ボランティアが**どんな活動をするのか**がみえない。
・そのためそこに**楽しみややりがい**があるのかわからず、メリットを感じられない。

会員の帰属意識が低い

・会員のクラブに対する**帰属意識が薄い**
・帰属意識が薄いのは会員にとってクラブは**習い事をする場**としか認識されていないからではないか。

責任・負担が重い

・運営に参加することへの**責任の重さや負担の大きさに対する不安**がボランティア増加を妨げているのではないか。

スタッフが固定化されている

・現在の運営スタッフが特定の人に固まっており、**新たにその輪の中に入ることが心理的に難しい**のではないか。

謝金・礼金が少ない

・**わずかなの謝金（交通費等の実費）すら出せない**ことが問題なのではないか。

【取組・解決策】 運営ボランティアを増やすためにクラブはどうすべきか

◇楽しみ・やりがいの提供

・ボランティアにとっても魅力あるプログラムを考え、そこにボランティアとして参加する**楽しさややりがい**を伝えることを常に意識、**適材適所**を心がける。

◇運営の様子をみてもらう

・現在の運営スタッフが**運営活動を楽しむ姿**を会員にみせることが一番の近道。
・意識的に会員の目の届く場所で運営活動を行ったり、積極的にその魅力を伝えるような声掛けなりを習慣的に取り入れ、**クラブの理念を継承**していく。

◇負担感の軽減

・会場への送り迎えをつけるなど、ボランティア参加への**負担感を軽減**する方策が必要。

◇地域の人材発掘

・地域の他団体との連携を増やすことで**より多くの人材と接する機会**を作ることが重要。
・機会を増やせばそれだけ協力的な人材に出会える可能性は拡大する。
・より積極的な働きかけとして会員へのスポーツリーダー養成講習会参加の声かけ等も有効。

◇お金・謝金の確保

・クラブ運営費は年会費で賄い、参加費・指導料を別途徴収して**最低限の謝金代を確保**する。

第2回東京都地域スポーツ連絡協議会